

ひらり ええとこ ひおかの塔

龍泉寺五輪塔

境内の西南隅に立っており水輪は、花崗岩製で、他は竜山製。本来この塔は、現在地より約西100mの旧山陽道添いにあり昭和10年ごろ拡幅工事のため現在地に移された。康永3年（南北朝時代）の銘が記されている。

平野町内会
氷丘まちづくり実行委員会





















下村商店



加古川平野

米酒
たばこ

のらく
来院者

オコイスねこの手

完全個別 Dr. 関塾
小・中・高対策 加古川平野班



























県指定文化財

ほうきょういんとう

宝篋印塔 1基



花崗岩製 高 228センチ

所有者・管理者 坂元町内会

南北朝時代～室町時代(14～15世紀) 指定年月日 昭和50年3月18日

この塔は、完全な状態で保存されている大きな宝篋印塔です。
基礎の部分の格狭間内には、^{ごうざま}開花蓮や^{かいか}一茎蓮の模様が彫り出
されています。また、^{とうしん}塔身部の^{がちりん}月輪には^{こんごうかいしぶつ}金剛界四仏の^{しゅじ}種子を配し
ています。笠部の^{すみ}隅飾りには、^{たいぞうかい}胎蔵界大日如来の^{しゅじ}種子を配してい
ます。

この塔は、昔から^{いずみのしきぶ}和泉式部の墓と伝えられています。和泉式部
は平安時代の女流歌人で、各地に伝承が伝わっています。

平成20年4月 加古川市教育委員会



片村建設
423-0328

片村建設

片村建設
423-0328









西國街道
風土記
道

教信寺





官兵衛の妻
光ゆかりの地

教信寺(野口城跡)

天台宗の寺院で、本尊は阿弥陀如来です。平安時代前期の僧、沙弥教信がこの野口に庵をつくりました。念仏を唱えながら仏の教えを説き、お百姓の手伝いをし、わらじを作って貧しい人に与えたり、旅をするお年寄りの荷物を



野口城の戦い(三木・法界寺蔵)

を運んだりして、大勢の人を助けたことから「荷送り上人」や「阿弥陀丸」とも呼ばれました。庶民仏教の普及に努めた庵跡に建てたのが教信寺で、境内の左手奥に教信上人廟があり、春には、満開の桜が境内を彩ります。また羽柴秀吉の播磨攻めの時、寺の東側にあった野口城では、黒田官兵衛が指揮した秀吉軍と教信寺の僧兵と野口城兵が戦いましたが、奮戦やむなく落城しました。野口城の位置については、近世の山陽道の北側にあった説と南側にあった説があります。

加古川市



てるひめちゃん

かんべくん

史跡 教信寺と沙弥教信

教信寺は、平安時代に活躍した教信上人の庵の跡に建てられた寺院です。

教信上人は天応元年(781)奈良に生まれ、興福寺で学んだ後、16歳の時に同寺を出て諸国を行脚し、40年余りの後、賀古の駅にたどり着き庵を結びました。加古川での教信の活動は、ひたすらに念仏を唱えながら、街道を行く旅人の手助けをするというもので、東は明石から西は阿弥陀宿(現高砂市阿弥陀町)まで荷物を運んだと言います。また、教信寺の南に広がる駅ヶ池も教信が地元の人々と掘った物だと言われています。

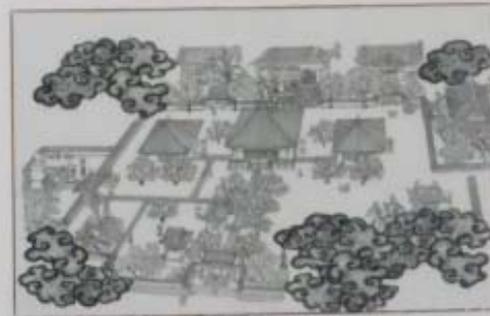
貞観8年(866)、自らの死期を悟った教信は、妻と子に遺骸は庵の側に捨てて鳥獣に施してほしいと言い残して亡くなりました。同じ時摂津国勝尾寺(現大阪府箕面市)の僧勝如の夢に教信が現れ、自らの死を告げました。不思議に思った勝如が弟子を加古川へ走らせると、そこには頭部だけがきれいに残った教信の遺骸がありました。これが、現在教信寺伝わる教信頭部像だと言われています。

その後、清和天皇(850~880)が教信の徳をしのいでこの地に伽藍がらんを建てて観念寺とし、さらに崇徳天皇が大治元年(1126)に念仏山教信寺と改めたとされています。天正6年(1578)秀吉の三木城攻めにともない野口城が攻略され、教信寺もすべて焼かれてしまいましたが、諸尊は僧らの手によって焼失を免れ、元和年間(1615~1623)に再興されました。

教信は一遍や親鸞にも先達として仰がれ、とくに一遍は諸国を巡るたびの途中、教信寺で1泊して念仏踊りを興行し、これが現在の播州音頭の起源であると言われています。



一遍上人絵伝に描かれた教信寺



現在の教信寺伽藍配置

平成15年5月 加古川市文化財保護協会

ひと・川・コミュニケーション

わがまち 加古川

MY TOWN
AND KAKO
GAWA

60選

きょう しん じ

教信寺

天台宗の寺院で、本尊は阿弥陀如来です。平安時代前期の僧、沙弥教信(しゃみきょうしん)がこの野口に庵をつくりました。念仏を唱えながら仏の教えを説き、お百姓の手伝いをし、わらじを作って貧しい人に与えたり、旅をするお年寄りの荷物を運んだりして、大勢の人を助けたことから「荷送り上人」や「阿弥陀丸」とも呼ばれました。庶民仏教の普及に努めた庵跡に建てられたのが教信寺です。境内の左手奥に教信上人廟があります。春には、満開の桜が境内を彩ります。

加古川市制60周年記念
平成22年6月





念佛
道場



本 堂

本尊は阿弥陀如来立像です。

天正の兵乱後、元和年間(1615～1623)に再興した本堂は、
天保11年(1840)に再び焼失しています。安政2年(1855)の、
板書きの10分の1本堂図が残っていますが、完成はしていません。

現在の本堂は、もと書写山如意輪寺(女人堂)にあった寄棟造り
本瓦葺きの念仏堂で、応永5年(1398)の建立と伝えられています。
破損が激しかったため、明治11年(1878)に取り壊しを願い出たもの
を、明治13年(1880)に教信寺がもらい受け、檀徒が協力して移築
しました。その後、昭和57年(1982)に屋根瓦を葺き替えています。

平成7年(1995)の阪神淡路大震災では、壊滅的な損壊を受け
ましたが、多くの援助により復興し、その際、本堂後半部の石積みの
基礎を取り去り 回り縁としています。

平成15年5月 加古川市文化財保護協会







納髪永代供養地



教信上人舊跡



教信沙弥廟

教信沙弥は、こゝ賀古の駅で晩年の約三十年間、俗生
活に入り、農家の手伝いや旅人を助けながら、浄土の教
を弘めし、人々の喜びを伝えました。その功徳を
奉化に討するついで、尊の精神に帰れしといふ静かでは
ないが、沙弥独自の末進道場であつたと言ふべきです。
昭和八年八月十五日辰如上人を浄土の教に
して住進しました。最後の供養として遺骸を鳥獸に
与ふる様子をいたしました。伝へられず、こゝはその遺跡で
あります。因みに五輪塔はかなり後世の南北朝のものと思われ
ますが、現在兵庫県指定文化財になっております。

昭和五十七年三月再建立

岡山千百回遠忌記念



敦信上人御廟所

県指定文化財 石造五輪塔ごりん

指定年月日 昭和51年3月23日
所有者・管理者 教信寺

沙弥教信の墓塔と伝えられ、ひょうしほ 廟所内に東面して建つ。花崗岩製、総高2.08メートル。

請花・笠・台石の一部が少々欠けているのは惜しいが、全体的に各部の比例もよく整い、容姿も堂々とした風格をもっている。

水輪の正面には種子キリーフを刻み、その手法は菓研彫りで古調を帯びている。

各部の形式、種子の彫法などから推すと、鎌倉末期のものともみてよい。元亨3年(1313)が勧進して、教信廟をつくったと伝えるから、その頃のものである。

当地方におけるこの時期の秀れた石造遺品として貴重な資料である。

平成2年11月

兵庫県教育委員会

Prefectural Cultural Assets

The Stone Monument of Gōrin

This stone monument to the Buddhist monk Shōami Kyōshin is located in the temple grounds, facing east. It is made of granite and has a total height of 2.08 meters.

Some of the petals, the lid, and the base stone are slightly damaged.

Although some parts are missing, the overall proportions are well-balanced, and the appearance is dignified.

The front of the water wheel is carved with a seed leaf motif.

The carving technique is a traditional style called 'Kakuri-bori' (fruit-stone carving), which gives it an antique feel.

Based on the form and the carving style of the seed leaf, it is believed to be a work from the late Kamakura period.

It is thought to have been donated in the third year of Genkō (1313), when the temple was established.

This is a valuable example of stone monuments from this period in the region.

Declared as a Prefectural Cultural Asset on March 23, 1976.

Declared as a Prefectural Cultural Asset on November 2, 1990.

Hyogo Prefecture Board of Education



開 山 堂

本尊は教信上人頭部像です。

天正の兵乱後、元和年間(1615~1623)に観音堂が再興しましたが、天保11年(1840)に焼失し、その後再建されましたが時期は不詳です。

老朽化や破損が激しかった所に、平成7年(1995)の震災で修復不能となり、基礎以外の部材は殆ど入れ替わりました。復興の完了した平成13年(2001)から開山堂に変更しています。

平成15年5月

加古川市文化財保護協会